

(事後C)

評価委員会総合評価

研究課題名：c8 環境要因による局地気候変動のモデル化に関する研究

評価委員

委員長：隈健一

委員：高薮出、大野木和敏、安田珠幾、小泉耕、堤之智、青梨和正、
佐々木秀孝、鈴木修、橋本徹夫、山本哲也、石井雅男、丸本大介

評価年月日：平成 30 年 11 月 5 日

1. 総合評価

- ☐ 非常に優れた研究であった。
- ☐ 優れた研究であった。
- ☒ 研究を実施した意義はあった。
- ☐ 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、都市気象モデルの物理過程の多様化や高精度化及び、地域気候モデルの精度評価等にあたり地上気象観測データの品質や代表性の確保が求められる中、領域気候モデルの精度向上及び周辺環境による露場内の気温差の実態の解明を目指した研究である。

本研究により、都市気候モデルが領域気候モデルに取り入れられ、都市キャノピーモデルの精度改善が見られたことは大きな成果である。近年の地球温暖化やヒートアイランド現象に対する都市域における客観的な評価に役立つ成果が得られている。ヒートアイランド対策大綱に基づく本庁気候情報課の業務への貢献があったことも評価できる

また、大手町露場等での詳細な観測データの取得や観測環境についての調査が実施され、今後につながる成果が得られている。しかし、観測データの性質に関する情報を得るところにまで至っていない点は、若干残念である。

以上のことから、本研究は、概ね適切な目標設定と研究体制のもとに実施され、当初想定した成果が得られた研究であったと評価する。

なお、今後の次期課題の実施にあたり、以下の指摘事項を踏まえて、取り組んで欲しい。

- ・都市気候モデルに関する研究（副課題１）は、気象庁の動向等、気象研究所を取り巻く外的要因に留意しつつ、今後の研究を進めて欲しい。
- ・観測データの環境依存に関する研究（副課題２）は、今後、より普遍性のある知見をドキュメントとして取りまとめる等、一般化してゆく努力が必要だろう。
- ・副課題２については、最終的な目標を明確にし、今後の計画や役割分担等の気象庁との調整を十分に実施した上で、研究を進める必要があろう。